社　会　経　済　活　力　創　出　対　策　特　別　委　員　会　記　録

<table>
<tr><td>１　会議の日時</td><td colspan="2">令和　５年　７月　５日
開　会　　午前　１０時　００分
閉　会　　午前　１１時　５０分</td></tr>
<tr><td>２　会議の場所</td><td colspan="2">第４委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３　出　席　者</td><td>委員</td><td>委員長　岩井　豊太郎　副委員長　水野　正敏
伊藤　正博　渡辺　嘉山　平岩　正光
国枝　慎太郎　酒向　薫　若井　敦子
恩田　佳幸　今井　政嘉　平野　祐也</td></tr>
<tr><td>執行部</td><td>別紙配席図のとおり</td></tr>
<tr><td>４　事務局職員</td><td colspan="2">課長補佐兼係長　槙田　朝之　主査　水野　恵</td></tr>
</table>

５ 会議に付した案件	
件　　名	審 査 の 結 果
１　社会経済構造の転換について ・スタートアップエコシステム構築に向けた岐阜大学の取り組み ～ アントレプレナーシップ教育からスタートアップ創出･成長支援まで ～ ２　コロナ禍・物価高騰等からの経済回復・再生について ・航空機事業の技術を活用した新規開発プロジェクトについて ３　その他	

６ 議 事 録　（要点筆記）

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、社会経済活力創出対策特別委員会を開会する。

今日の委員会は、当委員会の調査項目としている「コロナ禍・物価高騰等からの経済回復・再生」及び「社会経済構造の転換」について協議するため開催した。

まず第１の議題、「社会経済構造の転換」について、参考人として国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学、学術研究・産学官連携推進本部の副部門長、高等研究院の准教授、岐阜大学公認、起業部顧問の上原雅行先生をお招きした。活発な意見交換を期待する。

それでは、「スタートアップエコシステム構築に向けた岐阜大学の取り組み～アントレプレナーシップ教育からスタートアップ創出・成長支援まで～」について、報告願う。

（上原参考人　報告）

○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対して、質疑はないか。

○平野祐也委員

スタートアップは資金調達に一番苦労すると思うが、行政で支援できることは。

○上原参考人

大学発スタートアップという高いリスクに対して資金支援をしてくれるベンチャーキャピタルを紹介してもらえるとありがたい。また、研究シーズを持つ教員の中には様々な起業スタイルを目指し、スタートアップまでは希望していない者もいるなど、多様であることにも理解を。

○平野祐也委員

経営者の人材不足に対して、どのように県が支援できるか。

○上原参考人

何度も起業するような起業家に経営してほしいという教員からのニーズがあるため、そのような起業家と、ベンチャーを考えている研究を持つ教員とのマッチングなど、相談レベルから情報共有ができるとよい。特に大学側で経営が担える人材を発掘するのは難しい。

○伊藤正博委員

日本で起業が少ない理由のひとつに、「学校教育（勇気ある行動への低い評価等）」があるとのことだが、起業家や経営者を目指すために、どのような学校教育が必要か。

○上原参考人

学校で起業家に講演してもらうことで、起業家、経営者との接点を持ち、就職以外の選択肢があることを知ってもらうことが必要。さらに、課題を与えるのではなく、自ら課題を見つけ、解決するためのアイデアを考えるトレーニングが必要と考える。実際に、起業部も高校への出前講座に取り組んでいる。

○今井政嘉委員

自治体の課題に対し、学生目線で新たなアイデアが生まれることはあるか。

○上原参考人

実際、大学でも、地域の課題を探す授業を実施している。自治体の職員と話をして「いいね。」と言われると、成功体験となり、さらにチャレンジしてみようというきっかけになる。

○若井敦子委員

日本で起業が少ない理由の１位は「失敗に対する危惧」とのことだが、どのように学生に教えているか。

○上原参考人

心理的安全性が重要である。常に伝えているのが、アイデアに対して否定から入らず傾聴した上で、

こうしたらもっと上手くいくのでは、という考え方である。誰かが出したアイデアを皆で応援する、こうした小さな雰囲気づくりが、良いサイクルになっていく。

○若井敦子委員

アントレプレナーシップ（起業家精神）教育の具体的な内容は。

○上原参考人

挑戦するきっかけづくりを目的とする。自らが社会の困りごとを発掘し、こうしたらもっとよくなる、といったことを他者に話す、といった体験を通して、楽しいと感じてもらうよう取り組んでいる。

○酒向薫委員

起業は成功事例だけではなく、その裏には多くの失敗事例もあると思うが、学生にどのように伝えているか。

○上原参考人

起業家との座談会などにおいて、あえて起業の厳しさや現実を伝えるよう、ゲスト（起業家）に依頼している。

○酒向薫委員

大学の授業と違い、実際の社会に出ると、企業の考え方との違いも出てくると思うが、大学としてはどのように考えているか。

○上原参考人

大学としても、経営者だけでなく、中小企業の現場の方などとも接点を持てるように意識している。あとは学生がどのように受け止めるのか次第である 。

○岩井豊太郎委員長

入学時には起業することまで考えて入学していない。学生が起業を考えるきっかけは。

○上原参考人

学生と話をする中では、自分自身のコンプレックスや上手くいかなかったことを解決したい、という経験がきっかけとなっていることが多いと感じている。

○岩井豊太郎委員長

岐阜大学では、生命科学に重点的に取り組むとのことだが、医学部や応用生物科学部があるからか。

○上原参考人

全国的にみても、医学部、獣医学部、薬科大学が同一敷地にあるところは少なく、こうした環境も背景に力を入れて取り組んでいる。

○国枝慎太郎委員

岐阜大学起業部の男女比は。

○上原参考人

男性３：女性１程度である。一方、アントレプレナーシップ（起業家精神）講義の受講生は定員20名の約2/3が女性である。

○水野正敏副委員長

女性の力は重要であり、何事も挑戦するのは女性である。引き続き取組を進めてもらい、岐阜から世界的な女性起業家が生まれることを期待している。

○平岩正光委員

本県の地域の魅力を磨くことは、大きなビジネスの可能性を秘めているので期待したい。

○恩田佳幸委員

スタートアップを希望している方々が海外に流出している理由は。

○上原参考人

一般的には、税制面などでメリットがある国もあると聞いている。

○恩田佳幸委員

本県にスタートアップが少ない理由は。

○上原参考人

県内にロールモデルがいない。県内に目標となるような若いスタートアップが事務所を構えれば県内のスタートアップも増えると考える。まずはロールモデルを支援していきたい。

○三木商工労働部長

県でも今年度、ロールモデルとなるスタートアップ支援を拡充する。現在、制度の詳細を設計しており、募集に向けて準備を進めているところ。

教員の起業に際して経営人材の不足が課題とのことであったが、研究室の学生は経営を担えないのか、担うにはどういう課題があるか。また、経営人材に求められることは。

○上原参考人

岐阜大学起業部初代部長が大学での研究成果を活用して起業したのは良い例だが、学生の課題としては、実際のビジネス経験が無いことである。何度も起業するような起業家に、経営をしてもらえるとよい。

○岩井豊太郎委員長

質問も尽きたようなので、しばらく休憩する。

午前11時10分　休憩

午前11時15分　再開

○岩井豊太郎委員長

それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開する。

次に議題２、「コロナ禍・物価高騰等からの経済回復・再生」について、参考人として、岩戸工業株式会社代表取締役の井納毅様にお越しいただいた。ぜひ、活発な意見交換ができればと思う。

それでは早速、「航空機事業の技術を活用した新規開発プロジェクトについて」報告願う。

（井納参考人　報告）

○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対して、質疑はないか。

○平野祐也委員

キャンピングトレーラー開発事業開始時に、会社の柱にしたいなど、どのような展望を持っていたか。

○井納参考人

コロナ禍の社員のモチベーションとなるような新しいことに取り組みたい、と始めた。柱にするには、航空機事業と比べて市場規模が小さいが、自社の営業で仕事を増やせる部門であった。

○酒向薫委員

過疎地域の高齢者にとって公共交通は必要不可欠であるが、安くバスを製作する方法は。

○井納参考人

揖斐川町からデマンドバスといった小さな車両を製作する事業を受託している。地方は新車を購入できないので、都市で使用したバス車両のリニューアル事業を実施している。

○岩井豊太郎委員長

キャンピングトレーラー事業の将来性、利益性は。

○井納参考人

需要は増加しており、弊社以外も参入してきているが、需要のピークが過ぎると事業が成り立たない会社も出てくると思われる。また、利益も出していかないといけないと考えているが、開発にあたっての投資は必要であるものの、受注生産で在庫は持たないため、リスクを抑えることができる。

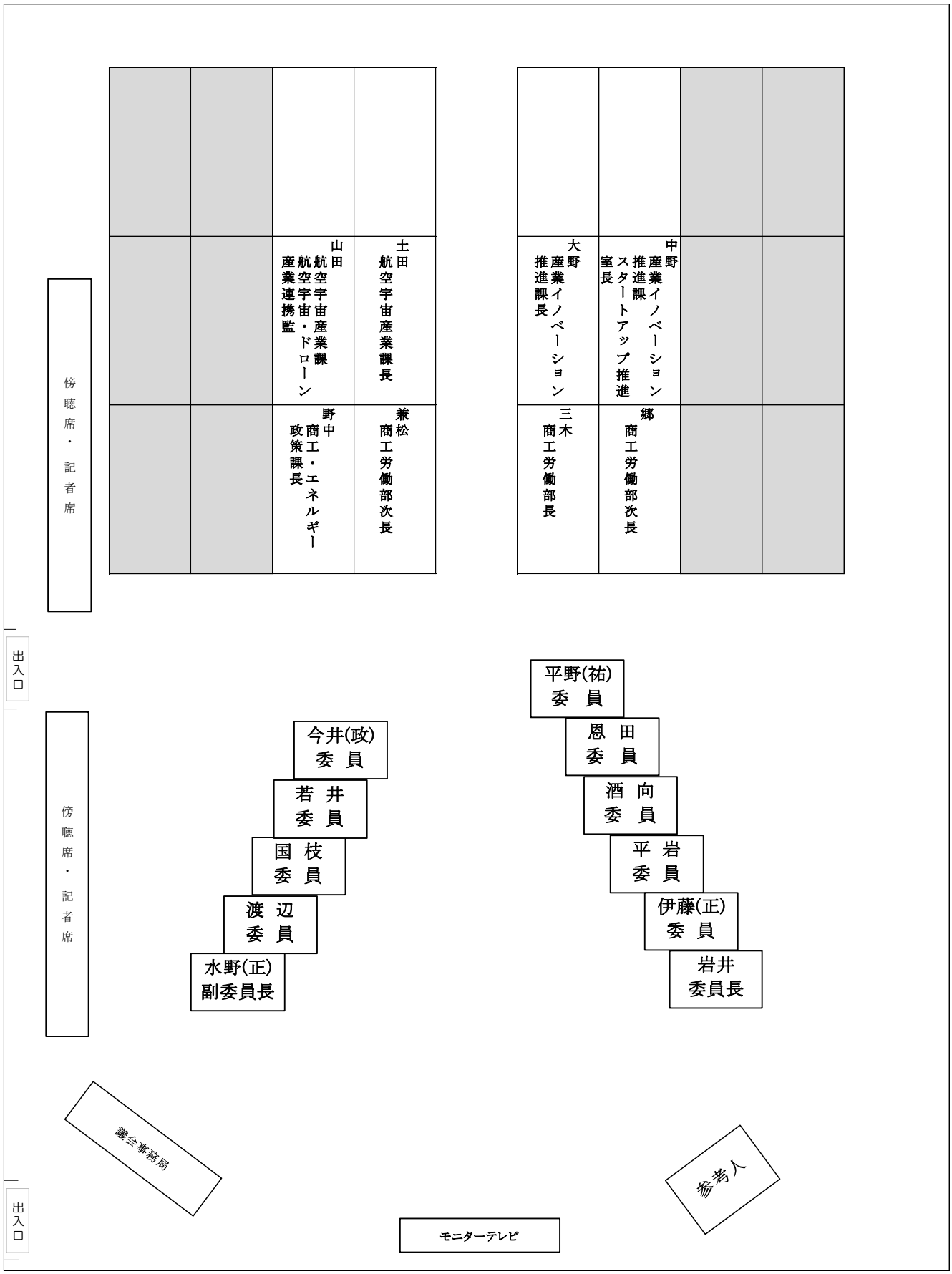
○岩井豊太郎委員長

質問等も尽きたようなので、これで終了する。

今回はこのように講師を招いて勉強したが、次回は現場で勉強する機会にしたいと思う。日程等は改めて事務局、副委員長とも相談しながら決めていくのでよろしくお願いする。

以上で本日の委員会を閉会する。

社会経済活力創出対策特別委員会 配席図

令和5年7月5日

第4委員会室